

Q 認定こども園・防災拠点施設に通じる

アクセス路の安全性を問う！

質問 1 回目

さて、いよいよ来年の 4 月から高台移転をした認定こども園なはりが開園と成ります。進入路である町道への入り口、国道につきましては、現在、町長を始め執行部・議会議長、多くの皆様が国土交通省・警察等に信号・横断歩道等の設置に向けて陳情を行って危険を回避するための努力をして頂いておられることは感謝するとともに引き続き継続して頂きたいとお願いするところです。

国道に関しましては今述べた通り承知をしているところでございますが、高台移転に成った認定こども園なはりに通園するアクセス路の件でお伺いを致します。

現在のアクセス路である町道は非常に高低差があり、また幅員に狭い所も見受けられる。町道の形状も複雑で、見通しも良くない、町民、保護者の方から危険ではないかと不安の声も届いております。

先日、私も現地に出向き確認をしてきましたが、幅員が 5m あるところもあれば、以下の所もありました。乗用車で行ったのですが、危険だと感じた箇所がありました。

この町道の件に関しましては、以前に執行部より、検討中であるとの見解を伺っておりますが、今後はどのような方向性を考えているのかを伺う。

答弁者 地域振興課長（濱内恵一）

寺村議員のご質問にお答え致します。

認定こども園に通園するアクセス路に関する今度の計画を問うについてであります。ご質問にあります通り、国道から認定こども園に通じる町道の整備についてでございますが、町の総合計画の基本理念であります子供からお年寄りまで健やかで安心して暮らせる事に基づき、南海トラフ地震対策を最重要課題として津波浸水区域内にある認定こども園を宮ノ岡地区の高台に移転し、平成 29 年 4 月開園に向けて、現在計画を進めているところであります。この際に、町道・墓地公園線が園児の主な通学路となります。

ご質問にもありました町道は、周辺に特別養護老人ホーム愛光園、中芸介護公社、中芸広域火葬場、奈半利町ランカガ丘墓地公園等の公共施設が多くあり、現状でも少なからぬ交通量があります。またこの高台に防災拠点施設、ヘリポート等を建設する計画もあるため、今後ますます交通量は増加するものと思われます。

町としまでも道路管理上、また安全確保のため道路整備は必須と考えておりまして、先ほどもお話にありましたように、国道を含む入口周辺につきましては、信号機、横断歩道、警戒表示等を、国土交通省関係については四国地方整備局をはじめ土佐国道工事事務所、警察関係については高知県警察本部交通規制課および安芸警察署等々との関係機関と協議を進めるとともに早期に着工頂けるよう、町議会議長様にも連名で要望書を提出している所はご周知の所であります。

町道部分の道路改良におきましては本年度、防災安全交付金事業を活用しまして、交差点の改良、道路線形、側溝等の改修計画を策定致しまして、その後、地権者への説明を経て用地交渉、用地買収、工事の施行と進めていく予定でございます。また改修計画策定にあたっては側線、グリーンベルト等の設置等についても検討し、交通の安全に十分配慮した計画策定を図るべきであると考えておりますが、なお、用地買収については地権者様のご理解を、ご協力を得られることが大前提でありますし、工事の施行については交付金の配分枠の確保等も必要である事も合せて申し添えておきます。以上、ご理解・ご協力の程、宜しくお願い致します。

質問 2 回目

開園後、通園路として考えれば問題点があるように思います。また、これからはさらに防災の拠点も建設され、同時にヘリポートも設置されます。このような施設を高台に建設されることは、災害時の対策として危機管理上非常に賢明な判断であると評価をしておるところです。(PDCA サイクル・BCP を含めて) 私は以前より、危機管理上高台移転に関する事は計画をしっかりと立て、パッケージで考えてほしいと訴えておりました。現在は理にかなった計画で新設された避難路も含め全てがリンクしており、行政が町民の生命を守るという意思が明確に形となっていると思います。

しかしながら、全ての施設にアクセスする町道が現状のままでは危険が伴うと同時に運用に支障が出ると判断せざるを得ません。

新しい施設が建設されるという事は、当然工事関係車両の往来が多く成り、

危険性が増すことは想定出来ることである。高台移転した認定こども園の通園路・防災の拠点・災害時の避難路・救援物資の搬入等の利用に重要な役割を果たす生命線と考えれば当然町道の危険回避対応策が必要であると考えます。

他方で、最近の報道等で高齢者における交通事故が多発しております。親が子供たちの迎えを高齢者にお願いするようなケースも当然ありうると想定出来ます。あらゆる危険性を考慮し、本来であれば、町道の改修が一番望ましい所ですが、まずこの町道の危険回避対応策を行えば、高台にある全ての施設がより効果的になり、全体としてのスケールメリットが得られるものと理解致しますが、町長の見解を伺う。

答弁者 町長（齊藤一孝）

寺村議員のご質問にお答えいたします。

先ほど課長の方からもご答弁申し上げましたように、何点か国、警察の交通安全対策、いろんな要望をしているところでございます。先方からは前向きに取り組んで頂けるとの事です。それでも当町の対応が遅いと、自分も反省しております。当然、入口の町が取り組まないといけない部分と、信号の位置についても今の所要望はしておりますが、まだ明確な答えは来ておりません。それと、言われるように町道の部分の入り口は、改修する事によって国も対応してくれる。国の方はいろんな方法、現状の歩道なんかの事で対応して頂けるという事です。交通量の問題と、町道の拡幅をするとか、なかなか難しい状況ですが、子どもさんの通園などに対応するための努力は精一杯して頂けるというような事でございます。信号につきましては当町がしないといけない部分という事で、今協議を継続しているところでございます。それから、上への町道の分については、5mを切っている所もありますし、そこで車道と歩道の分離するための側線であったり、あるいはどんな方法が出来るかという事、用地が少ない所なんかは幅が狭い所を何か対応できないか、また角になっている所がありますので、その辺りはまだ計画を描いておりませんが進めていきたいと考えて居ります。

それが出来ないなら出来ないで、どんな対応があるか。あるいは側溝へ蓋をするのか。側溝を下げることによって、下げないとなかなか蓋も出来ないだろうし、ブロックや基礎との関係でどうなるか。これは避難道路が完成し、その時点では迂回路も確保できる状況にもなっております。少し不便はかけますが、そのような対策も出来るというふうに感じております。

整備期間中、特に上へ後のヘリポートであったり、あるいはそういった懸念

される防災拠点の施設の設置の時にはかなり交通量も多くなるし、ご父兄、あるいは通園されている保護者の皆さんにも協力を得なければならない。ある時は今度出来た避難道路の方から上がっていただくとか、何かそういった事も十分周知しながら理解を得られる方法で交通安全対策は、本当にきめ細かな対応が必要であるというふうに考えております。そういった意味で理解を得ながら、危険を回避するような対応をしてまいりたいと思います。以上です。

質問 3 回目

主に地域振興課長の方が詳しい、こういう形でという答弁を頂きました。とにもかくにも、全ての園児さんが車で送り迎えできるわけではございませんので、その所も配慮して頂いて、今後安全の確保、そういう面ではしっかりと神経を使って頂いて、また認定こども園関係の職員やその他の施設の職員にも交通安全教育をしっかり行い、事故の無い様に取り組んで頂くことを宜しくお願い致します。答弁は結構です。ありがとうございました。